

令和6年度 庄原市生徒指導主事等研修会

開催日：令和6年6月4日（火） 開催場所：庄原市ふれあいセンター 集会室

生徒指導主事等としての役割を理解し、組織的・継続的な取組ができる生徒指導体制の確立を図るとともに、生徒指導主事等としての資質・能力の向上を図ることを目的とし、研修会を行った。

【講話】「庄原市における生徒指導上の諸課題の現状と課題について」

庄原市教育委員会 教育指導課 指導主事 福田 和宏

庄原市の生徒指導上の諸課題について、令和4年度の全国や広島県の実態と比較しながら説明した。令和4年度の全国のいじめの認知件数や暴力行為の発生件数、不登校児童生徒数はいずれも過去最多となっている。本市においては、不登校児童生徒数は若干減少したものの、引き続き深刻な課題である。また、いじめの認知件数や暴力行為は増加傾向にある。児童生徒を取り巻く環境は年々厳しさを増しており、「チーム学校」として組織的な対応が求められている。

【報告】「令和5年度生徒指導基幹研修を終えて」

庄原市立庄原小学校 生徒指導主事 佐々木 翼

令和5年度生徒指導基幹研修を受講した。生徒指導の基本的な方向性として、課題予防・早期発見に加えて、児童生徒の発達を支えるような生徒指導が求められている。また、チーム学校として、児童生徒が抱える複雑化・多様化した問題や課題を解決するため、児童生徒と向き合う時間を確保するなどの生徒指導体制を整備することが大切である。これらのことを受け、本校では「組織対応」と「共通理解」を基盤とする実践を積み重ねている。例えば、学力不振が不登校につながることもあるため、担任と連携し、管理職や生徒指導主事が休憩時間を利用して学力補充を行っている。取り組む内容は様々であるが、「やりきった」という達成感を味わわせることが、児童の自己肯定感の高まり、不登校の未然防止につながると考えている。



【講話・演習】「不登校児童生徒の基本的な考え方・アセスメントについて」

広島県教育委員会 個別最適な学び担当 指導主事 前田 加奈子

不登校児童生徒は、多様な要因、背景により、結果として不登校状態になっている。「問題行動」と判断してはいけない。「学校に行きたくても行けない」現状に苦しむ児童生徒とその家族に、寄り添い、共感的理解と受容の姿勢をもつことが大切である。児童生徒は多様な背景をもっており、児童生徒の状況について情報を収集し、まとめ、意味づけすることが重要である。



教職員等一人一人がもつ情報だけでは十分なアセスメントとは言えない。一人で行うことができる支援には限りがあり、異なる支援方針は児童生徒を混乱させることになるため、チームとして支援していく必要がある。

【指導・助言】

広島県北部教育事務所 教育指導課 指導主事 塩田 佐恵

庄原小学校では、「絆づくり」「自己肯定感を高める」などの、目的を明確にした取組を実践している。「何をするか」より「何のためにするか」「どのようにするか」が重要である。教職員全員が目的を共通理解したうえで取組を行うことにより、その取組が形骸化することなく、さらに発展したものとなる。

（事後アンケートより）

- ・「行きたくても行けない」現状、生起する問題行動の裏側をしっかりと捉え、それらの快方に向け、児童生徒に寄り添い、共感的理解と受容の姿勢をもつことの大切さを、教職員全体で押さえたい。また、若年層の生徒指導に係る力量の向上のため、対話を基にした協議を積極的に進めていきたい。
- ・児童生徒に関する情報収集を複数で行うようにしたい。集めた情報をていねいに分析し、誰が誰にどのように対応するのかをチームで考え、支援していくことがそれぞれの児童生徒に必要な支援をすることにつながる。